

# 詩集

芥川龍之介

青空文庫



彼の詩集の本屋に出たのは三年ばかり前のことだった。彼はその仮綴ちの処女詩集に『夢みつつ』と言ふ名前をつけた。それは巻頭の抒情詩ぢよじやうしの名前を詩集の名前に用ひたものだった。

夢みつつ、夢みつつ、

日もすがら、夢みつつ……

彼はこの詩の一節ごとにかう言ふリフレエンを用ひてゐた。

彼の詩集は何冊も本屋の店に並んでゐた。が、誰も買ふものはなかつた。誰も？——いや、かならず必しも「誰も」ではない。彼の詩集は一二冊神田かんだの古本屋ふるほんやにも並んでゐた。しかし「定価一円」と言ふ奥附のあるのにも関らずかかは、古本屋の値段は三十銭乃至二十五銭だった。

一年ばかりたつた後のち、彼の詩集は新らしいまま、銀座ぎんざの露店ろてんに並ぶやうになつた。今度は「引ナシ三十銭」だった。行人かうじん人は時々紙表紙かみべうしをあけ、巻頭の抒情詩に目を通した。(彼の詩集は幸か不幸か紙の切つてない装幀さうていだった。)けれども滅多めったに売れたことはなかつた。そのうちにだんだん紙も古び、仮綴ちかりとの背中もいたんで行つた。

夢みつつ、夢みつつ、

日もすがら、夢みつつ……

三年ばかりたつた後、のち汽車は薄煙うすけむりを残しながら、九百八十六部の「夢みつつ」を北海道くかいだうへ運んで行つた。

九百八十六部の「夢みつつ」は札幌さつぽろの或物置小屋の砂埃すなほこりの中に積み上げてあつた。が、それは暫しばらくだつた。彼の詩集は女たちの手に無数の紙袋かみぶくろに変わり出した。紙袋は彼の抒情詩を横よこだの逆様さかさまだのに印刷してゐた。

夢みつつ、夢みつつ、

日もすがら、夢みつつ……

半月ばかりたつた後、のち是等これらの紙袋は点々と林檎畠りんごばたけの葉かげにかかり出した。それからもう何日になることであらう。林檎畠を綴つた無数の林檎は今は是等の紙袋の中に、——紙袋を透すかした日の光の中におのづから甘みを加へてゐる、青あをとかすかに匀ひながら。

夢みつつ、夢みつつ、

日もすがら、夢みつつ……

(大正十四年四月)





# 青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚 芥川龍之介全集第四卷」筑摩書房

1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行

1979（昭和54）年4月10日初版第11刷発行

入力：土屋隆

校正：松永正敏

2007年6月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 詩集

芥川龍之介

2020年 7月17日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>